



塩野会長

### 日本代協関東ブロック 有益な教育コンテンツ 日本代協アカデミー活用セミナー

日本代協関東ブロック(栃木・茨城・埼玉・千葉)は1月17日、「日本代協アカデミー活用セミナー」を開催した。日本代協理事で教育委員長

の石川幸幸氏が講師となり、「日本代協アカデミー」を

東関東ブロック長の埼玉代協会長の塩野忠氏は挨拶で、1月1日に発生した能登地震に連れ、被災地域で奮闘する保険代理店に敬意を表するとともに協力していきたいと述べた。そのうえで保険

東関東ブロック長の埼玉代協会長の塩野忠氏は挨拶で、1月1日に発生した能登地震に連れ、被災地域で奮闘する保険代理店に敬意を表するとともに協力していきたいと述べた。そのうえで保険



石川氏

BCP策定の提案等、保険販売以外に大きな役割があるとし、

「環境変化に対応できないものは淘汰される。日頃からの勉強と情報収集が重要であり、日本代協アカデミーは解決策の一つのツールになる」と活用を呼びかけた。

石川氏はまず業界の環境変化やマーケット動向、保険代理店実在数・募集人数等の変遷を説明し、統廃合が進む現状において、年商5000万円から1億円規模でも10年後に単独では生き残れないと指摘した。代理店を成長させ継続させるためには、十分な事業計画が重要だと訴えた。

日本代協会員アンケートによると、回答者の8割が10人以下の代理店で、61%が日本代協アカデミーを知っていると回答し、そのうち23・5%

が活用している、59%が独自システムを活用していると回答。小規模代理店が8割を占める一方で、高額になりがちな独自システムを活用している代理店が多いという結果に石川氏は懐疑的な感想を述べた。また、募集人を対象にしたhokan社の調査では65・9%が「募集人教育は難しい」と回答した結果を示し、

「募集人自身が教育を求めている」と訴えた。そのうえで、日本代協アカデミーの料金や使い方を活用を促した。

ソコンやスマートフォンで計画的に学べることで代理店経営の高度化や募集人のレベルアップ、収益向上に資する実践的研究に対応していること、定期的な更新で最新の情報収集が可能なこと等を紹介した。同氏は自社のログイン画面を共有しながら自動車保険の商品説明とテストの仕方、社員の受講履歴や証跡等を披露し、「事業計画の教育プログラムの実績として有益なコンテンツとなっている。ぜひ導入して教育に活かしてほしい」と活用を促した。

